

地域団体商標の取得により
ブランドの守りを固め、
さらに周知拡大にも活用

本場大島紬

織細で独特な緋(かすり)模様が特長の「本場大島紬」。1300年以上の歴史を持つ、我が国最古の染織織物とされています。この鹿児島県を代表する伝統的工芸品の織物は、時代を問わず模倣品が市場に出回り、地元ではその対応に追われてきました。地域団体商標の取得によって権利をより明確に主張することで模倣品に対抗。さらに、着物離れが進む昨今、若い世代に向けたブランドの再周知にも力を注いでいます。

地域団体商標
模倣品対策事例

01

模倣品に対する 商標権の主張を強化し ブランドの周知も実現

「本場大島紬」は呉服の世界で人々の羨望を集める高級ブランドであることから、国産さらに外国産の模倣品も多く、中には製法のまったく異なる劣質な商品も流通していました。悪質なケースでは類似した名称を使用するだけでなく、登録商標である旗印のマークを模造したタグを付

けて販売されているものもありました。本場大島紬織物協同組合では、模倣品に対する警告はもちろんのこと、無料で活用することのできる税関への輸入・輸出差し止めの申し立てを継続して行って来ました。そして2007年2月、大島紬の正統なブランドとして、模倣品に対する権利の主張をより強化するために地域団体商標を取得しました。税関への陳情も継続して毎年行っており、現在では海外からの模倣品は皆無に等しいと

のことです。また、地域団体商標の取得効果はブランドの周知にもつながっています。鹿児島市は、同じ大島紬の主要産地である奄美大島の約4倍の生産量を誇るのにも関わらず「本場大島紬」の産地であることはあまり認知されていませんでした。「本場大島紬」で地域団体商標に登録したことで「本場奄美大島紬」との区別を明確にでき、鹿児島市も大島紬の生産地であることを多くの消費者に認識されるようになりました。

地域ブランド 10の成功物語 | 模倣品対策事例



【権利者】本場大島紬織物協同組合
【住所】鹿児島県鹿児島市新栄町18番6号
【地域団体商標】本場大島紬
【商標登録】第5025438号

本場大島紬織物
協同組合
ホームページへ



企業や学校とのコラボで 伝統あるブランドの 新たなファンを創出

本場大島紬織物協同組合では、専任の検査官が26項目にわたる徹底した品質検査を実施しています。各組合員は商品が出来上がると必ず組合事務所に持ち込み、その場で検査を受けます。そして、全項目をクリアした「本場大島紬」にふさわしいと認められたものだけに登録商標の上に合格スタンプが押されます。ここで模倣品とは一線を画する高品質の大島紬が市場へと旅立っていきます。地域団体商標への登録を契機に、ブランドの価値や品質に対する組合員の意識はより高まり、また検

査官の目もより厳しくなったとのことです。また、組合主催で開催する「本場大島紬フェスティバル」にて新作コンテストを実施し、優勝者には総理大臣賞や経済産業大臣賞等を授与。組合員にとってインセンティブにもつながる機会を設けることでスキルアップも図っています。その一方で、商標取得後は企業や学校などとのコラボも旺盛に行って来ました。コラボにあたってライセンス料などは無償とし、ブランド周知に注力。一例はJR九州の依頼で実現した、人気列車「なつ星 in 九州」の乗務員が携帯するバッグの製作。フタの裏側に「本場大島紬」が使用されており、乗務員がお客様に対応するためバッグを開けると美しい織物が現れるという粋なはからいです。また、地元の短期大学が主催するファッションショーや東京の女子大学のミスコンテストなどに生地を提供したり試着体験を行ったりと、着物離れが進む現代において若い世代が「本場大島紬」に接する機会の提供も

旺盛に行っています。伝統ある織物ブランドは地域団体商標の取得により、権利の保護や品質の保持、そして新しい時代に向けたブランディングに意欲的に取り組んでいます。



専任の検査官が
商品一つひとつを
丹念にチェック



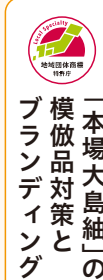
検査後、合格品には登録商標の上にスタンプが押される

こちらにお話を聞きました! 本場大島紬織物協同組合



参事
岩屋 佐智雄氏

自分たちのブランドは自分たちで守っていかねばなりませんから、模倣品・類似品に対しては毅然とした態度をとって来ました。自分たちが持つ権利をより強く主張できるようになったので、地域団体商標を取得した意義は大きいと言えます。また、ものづくりに対する組合員のモチベーションも高まったと感じています。



「本場大島紬」の
模倣品対策と
ブランディング

STEP 1 1975年

たくさんの模倣品が
市場に出回る中、
国が「本場大島紬」を
伝統的工芸品に認定



STEP 2 2007年2月

「本場大島紬」を
地域団体商標に登録し、
類似した名称の商品や
明らかな模倣品に対抗



STEP 3

JR九州とのコラボにより
「本場大島紬」を一部に
あしらった、乗務員用の
バッグを製作



STEP 4

地元や東京などの
学校のイベントに協賛、
若い世代を対象とした
啓蒙活動を推進



「地域ブランド化とは何か？」

地域ブランドの作り方

地域ブランドの権利化を図る

地域団体商標制度とは

地域団体商標を登録するには

地域団体商標の取得メリット

活用事例の紹介

地域ブランド総選挙

地域商標マークについて

支援施策の紹介